

ザンバーン通信

■ 室長就任挨拶 ■

男女共同参画推進室長 ひと文化系領域教授 清末 愛砂



2024年4月に男女共同参画推進室長に就任しました。憲法学とジェンダー法学を専門にしています。とりわけ、憲法24条という、婚姻の自由を保障し、家族に関連する立法の憲法規範を規定する条文の研究をしています。

2011年10月に本学に着任してから比較的早い段階で、認知症を患っている母の介護を担い始めました。それ以来、男女共同参画推進室が進めてきたライフイベント期の支援事業に大きく支えられ、仕事と介護を両立させてきました。正直に書くと、同居介護中は授業を行うことすら困難なときが多々あり、これから授業が始まるのにどうすればいいのだろうとパニックになりそうになったこともありました。母の要介護度が上がり、医師や看護師、ケアマネージャー等から、一人での同居介護はこれ以上無理だと言われる状態もしばらく続きました。介護者である私自身が母の施設入居を受け入れるまでに少々時間がかかりましたが、その間なんとか乗り切ることができたのは、本学のライフイベント期の支援事業をはじめとする職場での支え、近隣の友人たちの支えがあったからです。本学に支援事業がなかったら、私は仕事を続けることができませんでした。実際に何度も辞めるしかないと思いました。母の死後は札幌在住の義母の介護も始まりましたが、こちらの方も本学の支援事業を通して、仕事と両立することができました。

こうした経緯があるため、私は〈私〉という一人の研究者をしっかり支えてくれた本学の事業に対して強い感謝の気持ちを抱いています。その「恩返し」と経験の共有のために、男女共同参画推進室の業務に携わりたいと考えました。専門分野という意味でも業務内容が大きく重なりますので、知見を活かして、本学の男女共同参画事業を盛り上げていく所存です。誰もがさまざまに能力をフルに生かすことができる職場をめざします。

女子学生インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと大学生活を送る女子学生たちにインタビュー！

進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話しいただきました。将来の目標に向けて前向きに学ぶ姿を見て、「理工系って面白そう!」、「私もやってみたい!」と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

室工大を志望した理由

私は小さい頃から教員になりたいという夢があり、教員免許を取ることができ、かつ多様な社会経験を積むことができそうな大学ということで室工大を志望しました。実際に進学してからは、大学の図書館でアル



バイトをしたり、大学祭実行委員の委員長として活動したりする中で大学職員や企業の方々や協働する機会があり、勉強や研究に加え社会経験の面でも充実した大学生活を送っています。小さい頃は引っ込み思案でしたが、大学でこのような経験を積むうちに社会性やリーダーシップも身につけることができ、自分でも成長を実感しています。元々は出身の岩手で大学に進学しようと考えていました。しかし色々考えた結果、室工大に進学し、今はこちらに来て正解だったと思っています。室工大で勉強と研究を進める中で、数学者



博士前期課程
情報電子工学系専攻
システム情報学コース2年

中津山 望さん

として大学の先生になるという新しい目標ができ、別の大学に進学して

裏面へ続く

